

機能と場をつなぐ家



① 1階/リビング・ダイニング

建物概要

所在地：名古屋市 築年数：31年 建て方：一戸建 構造：在来木造(一部RC造) 階数：2階建(地下1階)
 延べ面積：135.55㎡ リフォーム面積：113.47㎡ 工事期間：5カ月 工事完了年月：平成28年12月

名古屋市内のバブル景気の時期に建てられた築30年程の低層の住宅が立ち並んだ住宅街。新しさはないが時を経て成熟した街並みがどこか安定感と安心感を与えてくれる。各々の家は両側に広くはないながらも庭を有し日当を確保している。そんな住宅街に例外なく並んでいる空き家を再利用すべくリノベーションした。

家族構成は夫婦と小さい子供二人の合計4人。4人での生活には十分な広さではあったものの、間取りは一般的な建売住宅として計画されていたもので、収納が少なく居住スペースが必要以上に広がっていた。そのバランスを変えるため、収納を増やすなど必要最小限の間取りの変更を行うことにより効果的に機能と場のバランスを調整した。また、仕上げや設備、断熱材などは当時のままで古くなっていった為、一新させ清潔感と機能性を向上させた。

2階は予算の都合上間取りはそのままに必要室以外はあえて建具(ドア)をなくしたりして各室の関係を曖昧にし多目的な使い方ができるようなフリースペースにした。昔の日本家屋のように場所ごとの仕切り方を調節することにより、そのつながりに強弱をつけ主従関係をつくったり又は対等な関係もつくりながら機能と場がつながっていくような計画とした。収納家具を置いたり建具を外したりと仕切り方で変わる空間のつながりを意識して計画した。空間のつながりが人のコミュニケーションのつながりにも関りがでてくるのではないかと期待する。



1階平面図 S=1:150



2階平面図 S=1:150

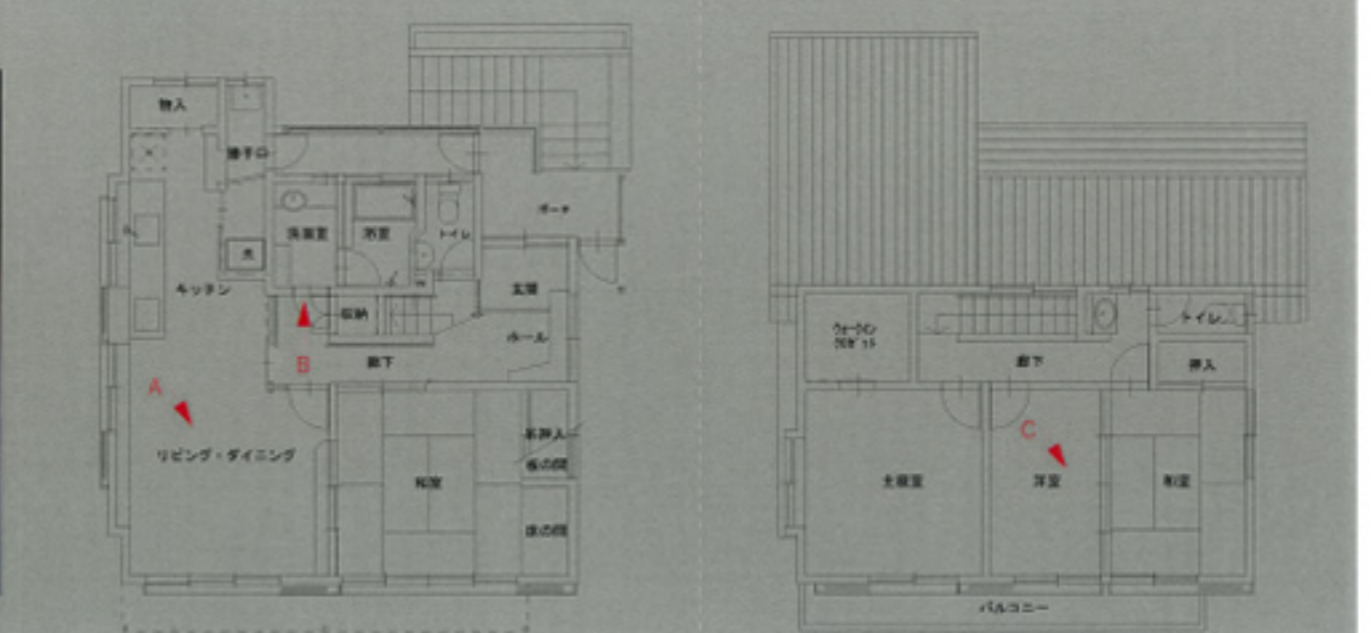
before



A：1階/リビング・ダイニング

B：1階/洗面室

C：2階/洋室、和室





② 1階/キッチン

(左写真) 既存計画では北奥の狭いスペースにあったキッチンを南側へ移動することで明るいキッチンとし、リビング・ダイニングとの距離を近づけ、家族のコミュニケーションの取りやすい計画とした。
また、壁で仕切らず家具として収納を置くことにより実質狭くなったLDKに広がりを与えると共に家具により視線が適度に遮られ丁度良い距離感でリビング・ダイニングとつながっている。
既存でキッチンのあった箇所は新たに間仕切って家事室とし、キッチンの補助スペースとして機能的な役割をもたせた。



③ 1階/室1

既存和室の床の仕上げを畳からフローリングに、壁を漆喰系塗料で仕上げた。思い切った素材を使うことであえてアンバランスなイメージとした。少し狭いリビングを補完したり客間、寝室としても使用できる。



2階/主寝室 壁漆喰塗り施工の様子



④ 1階/洗面・トイレ

シンプルに一室にまとめ、スムーズな動線と実質的に広いスペースを確保することを優先した。天窗、側窓からの自然光、間接照明により雰囲気の良い水廻りとなった。



⑤ 2階/室2

生活スタイルの変化に合わせ順次間取りを更新できるようなオープンスペースとし、現状は子供のセカンドプレイルームや、日当たりの良いサンルームなどとして利用する。



⑥ 2階/主寝室

仕上げ、照明などを更新。光の陰影が素材を照らす。壁の漆喰塗りは施工主とした。



⑦ 2階/廊下

仕上げを更新。屋根勾配なりの傾斜天井となっている。